



電気自動車

(5月のごあいさつ)

平成22年5月26日(水)

5月は多彩な月です。色とりどりの花は種類が多くて美しく華やかで、変化に富んで新鮮で、新緑萌える季節です。

7月の初めには電気自動車が来ることになった。

去年の秋頃に予約していたところ、今年の夏6月の末か7月の初めに入荷できるという。県内で8番目だとも聞いた。

ディーラーから、車のカラーなど仕様についての案内があった。

軽自動車と同じ大きさなので、拡大色の白色に決めてワクワクした気持ちで入荷を待っている。

今年の3月9日に沖縄コンベンションセンターで「沖縄MICEサミット」があった。その時、大津山訓男先生と佐藤仁哉さんに招いていただいて、パネルディスカッション「環境に優しい車社会を目指して」の会場に参加した。電気自動車の将来についてのディスカッション、地元のレンタカー協会の白石会長とインターネット ITS 協議会の時津直樹先生の議論に引き込まれた。印象的であったのは、「衣+食+住+情報+移住」、「2012年、イノベーション」、「電気自動車7,500万台の爆発」という言葉であった。

パネルディスカッション後の懇親会は恩納村のカフェリゾートであった。その時、時津先生に質問した。

「先生、2012年電気自動車7,500万台の爆発とはどういうことですか？」と訪ねた。時津先生は、「それはね、山内さん、導火線に火が付くということなんだよ。日本全国7,500万台のガソリンエンジン車は火薬庫のようなものです。それに導火線をつないで、火を付ければ爆発…私も沖縄に移住できる」と言って笑われた。周囲の大津山先生や白石さんや ITS 協議会の横山さんや西鉄情報システムの池上さんも皆楽しそうに笑い乍ら泡盛で先生の移住の実現を願って乾杯した。電気自動車の時代がすぐそこに来ているような気持ちになった。

約100年前の自動車の黎明期、自動車王ヘンリー・フォードが発明王トーマス・エジソンと論争して、電気よりはガソリンエンジンとして採用されて以来、発展の一途を辿って来たガソリン車はクライスラーとGMの破綻に見られるようにその役割を終えるのだろうか。今年には本当にEV元年になるのだろうか。

排ガスやCO₂を出さないという理想の車の前途にはどのような課題が待ち受けているのだろうか。本当に実現するならば、自動車の製造から素材、インフラ・サービスまで産業の大移動が起きるだろう。これをチャンスに「日本の物づくり」の復権は出来るだろうか。